

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																										
パシフィックテクノカレッジ		平成2年2月28日	辻野 宙直		〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜三丁目29-1 (電話) 098-897-2323																										
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																										
パシフィックテクノカレッジ学園		平成11年9月30日	辻野 信成		〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜三丁目29-1 (電話) 098-897-2323																										
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																										
工業	工業専門課程	自動車整備科		平成22年文部科学省告示 第153号	—																										
学科の目的 自動車整備士を育成すべく、幅広い知識と実践的な技能・技術・技術者マインド並びに対人スキル及び資格取得を目的とする。																															
認定年月日 平成 30年 2月 28日																															
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	2603	1026	0	1577	0	0																								
時間																															
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
100人		76人	1人	7人	1人	8人																									
学期制度	■1学期: 4月 1日~9月30日 ■2学期: 10月 1日~3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前期及び後期試験結果からの評価。A: 85~100点 B: 70~84点 C: 50~69点 F: 49点以下 ①年間授業時数の80%以上の出席率 ②所定の授業科目を履修していること。 ③期日までに授業料を全額納付している事。																										
長期休み	■学年始: 4月 1日 ■夏季: 9月 1日~9月30日 ■冬季: 12月27日~1月 6日 ■学年末: 3月11日~3月31日			卒業・進級条件	■課外活動の種類 学生自治会組織、地域清掃ボランティアの実施、インターンシップ、施設見学など ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和5年度卒業者にに関する令和5年5月1日時点の情報)																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ①無届欠席者への連絡方法、連絡体制の確立 ②定期的に教務会議を開催し、出席指導方法等の情報共有			課外活動	■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) 自動車販売ディーラー、民間整備工場、損害保険会社、軽自動車検査協会 ■就職指導内容 ①就職担当を専任する事でのきめ細かな就職支援 ②担任、就職担当が連携し就職指導を実施 ■卒業生数 33 人 ■就職希望者数 33 人 ■就職者数 33 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 5 年度卒業者にに関する令和5年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級自動車ガソリン</td> <td>①</td> <td>33人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>2級自動車整備士</td> <td>①</td> <td>33人</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	2級自動車ガソリン	①	33人	33人	2級自動車整備士	①	33人	32人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
2級自動車ガソリン	①	33人	33人																												
2級自動車整備士	①	33人	32人																												
中途退学の現状	■中途退学者 3名 ■中退率 3.9 % 令和5年4月1日時点において、在学者76名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者73名(令和6年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、出席不良、家庭の事情、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ①担任、学校長による学生及び保護者面談の適時実施 ②奨学金相談窓口開設、教育ローンなどの経済的支援																														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL	http://www.ptc.ac.jp																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映させることが重要であり、今後さらなる連携体制を構築していかなければならないと考えている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員は学院職員と企業・業界団体役員等<sup>等</sup>の学外委員から成るものとし、実践的な技術を持ち広く社会に貢献できる人材を育成するために連携し、必要な情報収集及び分析を行いより良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
豊田 和男	トライエア株式会社	令和6年10月1日～令和7年3月31日	③
喜納 正	有限会社めーばる設計工房	令和6年10月1日～令和7年3月31日	③
渡嘉敷 哲	一般社団法人 沖縄県自動車整備振興会	令和6年10月1日～令和7年3月31日	①
辻野 宙直	パシフィックテクノカレッジ		
阿波連 毅	パシフィックテクノカレッジ		
比嘉 翼	パシフィックテクノカレッジ		
系数 亮太	パシフィックテクノカレッジ		
内間 嘉春	パシフィックテクノカレッジ		
吉田 茂生	パシフィックテクノカレッジ		
新垣 務	パシフィックテクノカレッジ		

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)**

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員等(1企業や関係施設の役員等は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員等

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年11月1日 16:00～17:00

第2回 令和6年3月30日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ①3種冷凍機責任者資格取得に向けて、教員の育成から取組みを始める。
- ②電気機械製図授業に、業界で主流となっているTfas7ソフトの導入を検討する。
- ③学生のモチベーションアップを目的とした、設計事務所コンペティション見学を検討する。
- ④就職に有利となる貿易実務検定取得に向けての指導体制の構築
- ⑤施工管理技士の資格取得率向上のために電気業界団体に対し、建築CADアドバイザーの派遣依頼を検討する。
- ⑥自動運転車の特定整備に対応した授業編成への取組みを検討する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的且つ専門的な職業教育を通じて学科の教育活動の質の保証・向上を図る。工業分野の職業に係る就労意識及び継続的な学習意欲の醸成、並びに教育課程の自動車分野の実務に必要な知識、技術及び技能の修得又は向上に資する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

「インターンシップ」企業等との提携に基づき、自動車分野の企業研修を行います。学生の報告書及び研修担当者の所見を以て学習成果を評価します。授業科目「企業研修」として実施する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業研修	連携企業の工場内又は事務所にて担当社員の指導のもと、当該学科の専攻分野の実務や技能に関する実習を行う。	① 沖縄マツダ販売株式会社 ② 琉球日産自動車株式会社 ③ 沖縄トヨタ自動車株式会社 ④ スズキ自販沖縄株式会社 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学校の教員研修規定に基づき、教員に対して現在就いている職又は将来就くことが予想されるに係る職務の遂行に必要な知識、技能等を修得させることにより、その職務の遂行に必要な教員の能力、資質等の向上を図る。教員個々の経歴・属性に応じた研修を実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「電子制御装置整備の整備主任者等資格取得講習」(連携企業等: 一般社団法人 沖縄県自動車整備振興会)  
期間: 令和5年6月29日(木) 対象: 常勤教員1名  
内容: 自動車特定整備方法を学び、実習指導に役立てる。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ゲートキーパー養成研修」(沖縄県立総合精神保健福祉センター)  
期間: 令和5年11月6日(月) 対象: 常勤教員1名  
内容: 悩んでいる人に寄り添い、関わりを通して「孤独・孤立」を防ぎ、支援する能力を身に着ける。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「電子制御装置整備の整備主任者等資格取得講習」(連携企業等: 一般社団法人 沖縄県自動車整備振興会)  
期間: 令和6年6月頃 対象: 常勤教員1名  
内容: 自動車特定整備方法を学び、実習指導に役立てる。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「多様性への理解」(連携企業等: (一社) 沖縄県専修学校各種学校協会)  
期間: 令和6年5月頃 対象: 常勤教員2名  
内容: 問題のある学生への指導方法及び教員としての心構えを学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学院の教育目標・計画に沿った取り組みの達成状況、学院運営等への取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行い、学校運営等の課題について、継続的に改善を図るとともに評価結果を公表する。文部科学省「専修学校における学校評価のガイドライン」に準じて実施する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・育成人材像
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生募集と受入れ
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ① 学生の対人スキルに関して、研修を通し若年者のメンタルについて学習している。その情報を教員間で共有し、指導力向上に努める。
- ② 就職定着率調査等で、学院で真の退職理由が把握できたら、企業等と共有し就職定着向上に向け連携を強化する。
- ③ 地震津波避難訓練等防災訓練を通し、学生の防災意識向上に努める。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
豊田 和男	株式会社トライエア 代表取締役	令和6年10月1日～令和7年3月31日	企業側代表
渡嘉敷 哲	沖縄県整備振興会 総務部長	令和6年10月1日～令和7年3月31日	企業側代表
田原 美枝子	PTA代表	令和6年10月1日～令和7年3月31日	保護者
小谷 良太郎	卒業生代表	令和6年10月1日～令和7年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <http://www.ptc.ac.jp> 令和6年9月20日公開

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当学院は、教育機関としての社会的責務を果たすとともに、実践的かつ専門的な職業教育における質の向上及び学院運営の改善に資することを目的に、学院情報を公開する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL <http://www.ptc.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			構造及び性能(シャシ)	自動車シャシの概要、動力伝達装置、サスペンション、ホイール・アライメント、ブレーキ全般を学習する。	1・通	78	4	○			○		○		
	○			構造及び性能(エンジン)	ガソリンエンジン本体の概要と構造、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、点火装置、電子制御装置に全般について学習する。	1・通	90	5	○			○		○		
	○			自動車力学	自動車2級整備士に必要な計算、(軸重、遊星歯車等の)考え方を学ぶ	1・通	78	4	○			○		○		
	○			電気電子理論	電気の基礎と自動車の電装品、電圧、電流、抵抗の計測方法、モーターや発電機の基礎から原理、エア・コンディショナ、SRSエア・バック・システム等の構造、機能を理解する。	1・通	67	3	○			○		○		
	○			燃料潤滑剤油脂	石油精製法、燃料の性状と規格、潤滑、及び潤滑剤、潤滑作用、摩擦力、作動油について理解する。	1・前	20	1	○			○		○		
	○			自動車材料	材料の構成と動向、金属の種類、強さ、疲労、性質、変形、試験方法、鉄鋼材料の製法、炭素鋼の熱処理による変化、鋳鉄の性質、種類と用途、非鉄金属の種類特徴等を理解する。	1・後	19	1	○			○		○		
	○			製図	製図に用いる数字や線、記号の書き方及び製図の見かた、様々な種類の投影法を学習する。	1・前	20	1	○			○		○		
	○			エンジン整備法	エンジン本体の点検整備、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、点火装置の点検整備法について学習する。	1・後	27	1	○			○		○		
	○			シャシ整備法	動力伝達装置、サスペンション、ステアリング、タイヤ、ホイール、ホイールアライメント、ブレーキ等の脱着、分解、組み付け、点検の方法を理解する。	1・後	30	2	○			○		○		
	○			電装整備法	バッテリーの基礎知識・充電法、始動装置、充電装置、点火装置等の整備法を学習する。	1・後	19	1	○			○		○		
	○			機器取り扱い	計測機器概要、工具、作業用機器、一般測定器、E/G点検・調整機器、電装装置検査・調整機器、車両点検・調整機器・自動車検査用機器を学習する。	1・通	39	2	○			○		○		
合計					科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①年間授業時数の80%以上出席していること。②所定の授業科目を履修していること。③期日までに授業料を全額納付していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
12	○		安全衛生	安全と衛生の意味を理解し、災害の原因と傾向を考える。作業時の服装、行動、5Sを学習する。工具や動力機械の取り扱いを学習する。	1・前	20	1	○			○	○			
13	○		測定・電装実習	学科で学習した内容を実習にて実物を見て、実際に作業することにより理解を深める。作業要領を習得し実践に役立つ技術を習得する。	1・通	117	3			○	○	○			
14	○		基礎実習	学科で学習した内容を実習にて実物を見て、実際に作業することにより理解を深める。作業要領を習得し実践に役立つ技術を習得する。	1・通	546	14			○	○	○			
15	○		コンピュータ概論	ICT活用スキルを有する人材の育成を目指す。実技演習では Word・Excel等の基礎的な技能を習得させる。知識習得に関しては、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、セキュリティ等を講義する。	1・通	39	1			○	○		○		
16	○		就職実務 I	企業の採用活動、就職活動について理解させ、企業情報収集から応募書類の作成を実践させる。	1・通	39	2	○			○	○			
17	○		企業研修	企業の採用活動、就職活動について理解させ、企業情報収集から応募書類の作成を実践させる。	1・通	35		○				○		○	
18	○		構造及び性能(シャシ)	オートマチック・トランスミッション、フレームとボデー、自動車の諸元、パワーステアリング等の知識を向上させる。	2・前	40	2	○			○	○			
19	○		構造及び性能(エンジン)	ジーゼルエンジン本体の概要と構造、ジーゼル車の、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、点火装置に全般について学習する。	2・前	40	2	○			○	○			
20	○		性能	熱効率、平均有効圧力、仕事率、諸損失、体積効率及び充填効率基礎知識	2・前	20	1	○			○	○			
21	○		電気電子理論	論理回路の理解進数法及びデジタル通信信号の原理、制御、CAN通信システム、光通信システムの原理等を学習しハイブリット車や電気自動車への知識を向上させる。	2・前	20	1	○			○	○			
22	○		エンジン整備法	ジーゼルエンジン本体の点検整備、バッテリーの構造・点検、充電装置の構造・点検、始動装置の構造・点検整備法について学習する。	2・前	20	1	○			○	○			
合計				科目	単位時間(									単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①年間授業時数の80%以上出席していること。②所定の授業科目を履修していること。③期日までに授業料を全額納付していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
23	○		シャシ整備法	オートマチック・トランスミッション、エアサスペンション、パワーステアリング、タイヤ、ABS等の点検、不具合現象からの故障探求を学習する。	2・前	20	1	○			○	○			
24	○		電装整備法	電子制御における始動装置、充電装置、点火装置、燃料装置等の制御に関わる基礎知識を学習する。	2・前	20	1	○			○	○			
25	○		故障探求	ガソリンエンジンの故障原因と探究、電子制御式燃料噴射装置の故障原因と探究、ディーゼルエンジンの故障原因と探究、外部診断機（スキャンツール）の活用による故障と探究を学習する。	2・後	24	1	○			○	○			
26	○		対策授業	二級ガソリン・ディーゼル自動車整備士国家試験に向けた国家試験演習。	2・後	172	9	○			○	○			
27	○		検査法	道路運送車両法保安基準における検査法の知識	2・通	32	2	○			○	○			
28	○		関係法規	道路運送車両法における関係法規の知識	2・通	32	2	○			○	○			
29	○		応用実習	学科で学習した内容を基に実際に作業することにより理解を深め、作業要領を習得し実践に向けた整備技術・点検、検査技術を習得する。	2・通	840	21			○	○	○			
30	○		就職実務Ⅱ	企業の採用活動、就職活動について理解させ、企業情報収集から応募書類の作成を実践させると共に、就職内定者向けのキャリア教育を並行して行う。	2・通	40	2	○			○	○			
合計					30科目		単位時間( 2638時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①年間授業時数の80%以上出席していること。②所定の授業科目を履修していること。③期日までに授業料を全額納付していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。